

萩市消費生活センターマスコットキャラクター

(萩城下に伝わる「忠義の猫」の伝説)

忠義の動物といえば死んでしまった飼い主の帰りを、いつまでも駅の前でまっていたことが紹介された忠犬ハチ公が有名で、一般的に犬は人に仕え、忠義があるとされています。

気まぐれで、自由気ままと思われている猫の中にも、忠義を尽くした猫が萩にいたのです。

萩に城下町を築いた藩祖 毛利輝元には、長井元房という家臣がいました。

元房は、若年のころ、故あって萩を出奔し他国に牢浪していましたが、その間輝元はひそかに銀子を与えて元房を庇護していました。

後、輝元は、帰参した元房を、以前と同様に再び家臣として遇しました。

寛永2年(1625)、輝元が亡くなり、葬儀が萩平安寺(現在の天樹院)で盛大に執り行われました。輝元の葬儀後、元房は生涯輝元に深い恩を感じていたのでしょう、殉死してお供をされました。

元房には、とても可愛がっていた猫がいました。その猫は、元房が亡くなってから49日の間、天樹院の元房の墓前から離れようとはしませんでした。やがて、自らも舌を噛んで亡き主のお供をしたといわれています。

それから約400年・・・

平成の萩に悪徳業者や振り込め詐欺などに困っている市民のために悪を許さない忠義の猫が再び登場しました。